

第 264 回昭和の森 自然観察会

里山の暮らし(お正月飾りを作ろう)

佐藤一枝 (千葉市)

日時 ; 12 月 8 日 (木) 12:40~15:00 天気 ; 晴れ

参加者 ; 43 名 (大人 29 名 子ども 14 名)、指導員 11 名 計 54 名

担当指導員 ; 奥村 昭 小林義和 佐藤一枝

風もなく暖かい日でした。広場のテーブルに注連縄、ミニ門松、藁カメ、来年は午年なので、藁で作った馬も展示し参加者を待つ。お天気もよく出かけやすかったせいでしようか、思いのほか参加者が多く、始まるまで展示物を見ながら会話を楽しんだ。藁は埃が出るので、希望者にはマスクをつけてもらつた。

今回は、ミニ門松・注連縄飾り（輪飾り）・藁カメ の 3 班に別れてそれぞれのものを作ります。藁束に櫛の代わりに指を入れて“すぐ” ところから始まります。誰も嫌がらずに実施しています。こうやるんですか？ と楽しんでいるお父さんもいます。ちょっと濡らして、少し打ち、縄をないます。

祭事や仏事は左縄を使う慣わしを話す。そして縄りの違いを知り、ない方を説明し、実演しました。右でなえないのに左縄と四苦八苦していましたが…、何とか使うだけは、なうことができました。注連縄作りに使う藁は、水で少し濡らすだけです。小槌で打たず、手になじませて作るという、我が家の方でつくっていただきました。乾燥しているので、藁はすぐ乾いてしまいます、何度も濡らしながら頑張って作りました。

ミニ門松はマダケ 3 本をそぎの形に切って、モウソウチクの中に立て、マツを添えます。竹を切るのに時間がかかるので、ある程度まで準備し、各自で竹鋸をひいて作りました。注連縄飾りやミニ門松はナンテン・マンリョウの赤い実を飾り、その上稻穂も飾って、綺麗にでき、嬉しそうに持つて帰りました。

- * 今回は赤白の水引をかけるので、山岸指導員に水引の花結び（蝶結びとも）の結び方を教えていただいたり、結んでいただいたりして、一段と品格が備わりました。
- * 昭和の森のタケを所長さんにお願いし、いただきました。また指導員にはマツの枝、緑米などを提供していただきました。
- * 残った藁などは、後日、押し切りして、細かくし、ビオトープの田んぼに入れました。



藁カメ